

件名	令和５年度 第３回 福井市障がい者自立支援協議会 こども部会 報告書	会場	こども療育センター会議室 ※オンライン併用 ※傍聴１２名
日時	令和５年１１月３０日(木)10:00～12:00		
報告内容について	<p>(1) 全体会より：市の新たな計画は、放デイを多く利用していくというよりも保育所等訪問支援を活用し、教育機関を利用していくインクルーシブ教育の計画が反映されている。</p> <p>(2) 強度行動障害に関する研修について：特別支援教育コーディネーター等地区別連絡協議会において強度行動障害の予防に関する交流会をこども部会協賛の形で開催。今後も教育と福祉の連携を図る場としていきたい。</p> <p>情報：毎年、療育センターと特別支援教育センターとの連絡会を開催。強度行動障害については、県教育委員会への働きかけを連携して行っている。</p> <p>特別教育センターでの情報交換会を実施している。特セや特支校からの声として、強度行動障害の生徒に関するものが少しずつ挙がってきている。</p>		
協議事項 WG 報告	<p>1. 放課後等デイサービスの利用に関する協議について(資料 1,2,3,4)</p> <p>① 早い者勝ちになっている：保護者が気づくタイミングによっては就学前ギリギリとなり、希望通りに利用できないことがあるということで、周知の必要性があるということが見えてきた。今後も毎年就学前相談会などで、児童館の利用方法などと併せて話し、周知をしていきたい。</p> <p>② 求めている支援に応えられる事業所が見つからない課題について：基幹相談支援センターから放課後等デイサービス事業所の特色が分かるような一覧を HP に掲載。障がい福祉課の HP やハンドブックのほうにも紐づけしていく。</p> <p>③ 児の行動や支援に対するアセスメントの重要性について：多角的な視点において、より児の行動や家庭の理解に繋がるチームアセスメントの重要性が見えてきた。複数の関係機関が集まって、うまくいった事例の紹介などを行っていきたい。支援ニーズを考える中で、本人の求めているニーズと保護者のニーズをしっかりと分けて整理することが大切。「インクルージョンの視点」をもっていくことも重要である。</p>		
意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童発達支援を利用していない方の場合にはどのような方法があるのか分からないが、誰かが情報提供する必要がある。 ・ 年間通して色々な時期で新規を受けるのは放デイからの相談が多いと感じる。放デイも色々個性が出てきて、療育として特化しているものが増えている。特色が分かりやすいと待機の減少にもつながるのでは。 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・児童クラブで放課後過ごせるか考えた時、放デイで療育を受けていくニーズが挙がる。現状として小学校に進級してから放デイを探しているということになる。 ・放デイ利用日数が本当にその児童に適しているのか等は支援者間で精査・検証をしていかないといけない。地域に戻す、というところに関してはしっかり取り組んでいかないといけない。保育所等訪問支援を今後３年間、市の福祉計画でも力を入れていくとなっているので、放デイを使わず地域の中で過ごしていくことを見据えていけたらと思う。 ・生活スキルが身についていないまま１８歳になると就職しようと思ってもできない・あるいは就職しても続かない相談が増えてきている。大人の困り感から、こども部会でできることを提示して貰えるといい。 ・放デイの周知の話もあったが、就労の合同説明会のような方法も良いのでは。放デイ間も切磋琢磨するにはもう少し「見える化」するような関わりをもつことで質の向上につながるのではないかな。 ・学校の個別支援計画に、放デイの取組みを反映できるとよいのでは。
意見等	<p>３．教育と福祉の連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どういう福祉事業所を利用しているのか学校側も把握できていなかったり、どこに相談すればいいのかと感じているという課題がある。 ・プロフィールシートを学校と共有することは可能か？⇒会議の際に学校の個別支援会議の開示はあるため共有し、サービス利用計画をたてるので、同じタイミングで学校での個別支援計画に変更がないかなどの確認を丁寧にやっていると、学校と放デイのズレは減るのではないかと考える。 ・県研修では児発管として稼働できるよう、障害児部門での研修が実施される。療育・障害児に特化した研修をしていく計画がある。 ・市では、児童発達支援センターの４つの機能・役割を明確化。障害児通所支援事業所に対するスーパーバイズ・コンサルテーション機能について明記されている。児童発達支援センターとしての機能や役割を、どのように担っていくかという話を来年度以降に向けて進めていきたい。 ・ふくいっ子ファイルに関しては、たたき台として県が示したものであり、今まで市町で使ってきたものを否定するわけではなく、その子の評価と横の連携、将来を通しての縦の連携のツールが要ということが基本。いろいろな機関と繋がるために活用いただけたらいいと考えている。

<p>まとめ</p>	<p>※課題提起シートのような書式が必要かとの協議の結果、福祉側からの意見は市の障がい福祉課にまとめ、高校教育課の担当者に課題感を伝えていくということになった。</p> <p>4. 支援が必要な児童に関するハンドブックについて(資料6)</p> <p>※ハンドブックについて意見の回答フォームには現時点で特に意見なし。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の会を紹介できるページがあるといいのではないかと意見：どのように掲載していくといいか、案があればいただきたい。事業所情報の掲載などは基幹のHPとの連携を図っていこうと思っている。 ・必要としている方へ届くような周知について、ハンドブックを知って貰うのもいいのではないかと意見：市の福祉部のインスタグラムができあがったので、SNSも活用しながら周知していけたらと考えている。 ・強度行動障害の研修については定期的に開催して貰いたい。学校教育課で考えていただき、必要であれば、部会に返していただければ一緒に考えていくことができる。 ・放課後等デイサービスの利用に関するワーキングについては終結。インクルージョンというところで子育ての部門でももう少し話を進め、預かりの部分などをどうしていくのかを含めて考えて貰いたい。福祉の部門では、ニーズに合わせた居場所の確保についてどういう風に考えていくのか検討して貰いたい。 ・教育と福祉の連携に関しては、課題が常にあるわけではなく、共有する場をどこかに作っておく必要がある。それがこども部会かというところと違うかもしれないが、今はこの場しかないため、つなぎ留めておきながら他の適切な場所が決まれば、そちらへ渡していくこともできる。 ・支援が必要な児童に関するハンドブックについての意見の集約や周知などを、事務局にはお願いしたい。
------------	---